【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第４区分
【発行日】平成24年7月5日(2012.7.5)

【公開番号】特開2011-8851(P2011-8851A)
【公開日】平成23年1月13日(2011.1.13)
【年通号数】公開・登録公報2011-002
【出願番号】特願2009-150212(P2009-150212)
【国際特許分類】
Ｇ１１Ｂ　19/20　(2006.01)
Ｈ０２Ｋ　5/16　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ１１Ｂ　19/20　Ｅ
Ｈ０２Ｋ　5/16　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成24年5月22日(2012.5.22)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
記録ディスクが載置されるロータと、
前記ロータの回転軸を中心とする軸受孔を有するベースと、
前記ロータを前記ベースに対して回転自在に支持し、前記軸受孔に接着剤によって接着固定される軸受ユニットと、を備え、
前記軸受孔の側面には前記回転軸を中心とする環状の第１の溝が設けられ、
前記軸受孔の側面と接する前記軸受ユニットの円筒面には、前記回転軸に沿った方向において前記第１の溝とは異なる位置に、前記回転軸を中心とする環状の第２の溝が設けられ、
前記第１の溝の深さおよび前記第２の溝の深さはいずれも前記回転軸に沿った方向における前記第１の溝の幅よりも小さく、
前記ベースと軸受ユニットとに亘って塗布される導電性樹脂によって、前記ベースと前記軸受ユニットとが電気的に接続されることを特徴とするディスク駆動装置。
【請求項２】
前記回転軸に沿った方向における前記第１の溝と前記第２の溝との間隔は、前記回転軸に沿った方向における前記第１の溝の幅よりも小さいことを特徴とする請求項１に記載のディスク駆動装置。
【請求項３】
前記第１の溝は接着剤で満たされ、前記第２の溝は第１の溝を満たす接着剤と同じ接着剤で満たされていることを特徴とする請求項１または２に記載のディスク駆動装置。
【請求項４】
前記ベースの第１の面上に固定され、円環部とそこから半径方向に伸びる複数の突極とを含むコアをさらに備え、
前記ベースの第１の面には、前記回転軸を中心とする円環状の壁が設けられ、
前記壁の内周面は前記軸受孔の側面の一部を形成し、
前記壁の外周面は、前記コアの円環部の中心孔に嵌め合わされ、
前記コアは、前記軸受孔の側面のうち前記軸受ユニットの円筒面と接する部分を環囲す

る位置に固定されることを特徴とする請求項１から３のいずれかに記載のディスク駆動装置。
【請求項５】
前記軸受孔と前記軸受ユニットとの隙間には前記第１の溝および前記第２の溝を合わせた体積に等しい量の接着剤が介在することを特徴とする請求項１から４いずれかに記載のディスク駆動装置。
【請求項６】
前記軸受孔の側面のうち前記第１の溝よりも前記第２の面側に、前記第１の溝よりも微小な複数の溝による帯状領域を設けたことを特徴とする請求項１から５のいずれかに記載のディスク駆動装置。
【請求項７】
前記ロータは、前記記録ディスクが載置されるハブと、前記ハブの中心に固定されたシャフトと、を有し、
前記軸受ユニットは、前記シャフトの一部を収納し回転自在に支持するスリーブと、前記スリーブを環囲して固定するハウジングと、を有し、
前記ハウジングと前記スリーブとは一体に形成されたことを特徴とする請求項１から６のいずれかに記載のディスク駆動装置。
【請求項８】
前記ロータは、前記記録ディスクが載置されるハブと、前記ハブの中心に固定されたシャフトと、を有し、
前記軸受ユニットは、前記シャフトの一部を収納し回転自在に支持するスリーブと、前記スリーブを環囲して固定するハウジングと、を有し、
前記ハウジングは円筒部と底部とが一体に形成された有底カップ形状を有することを特徴とする請求項１から６のいずれかに記載のディスク駆動装置。
【請求項９】
前記導電性樹脂は、前記ベースの面のうち前記ロータが設けられる第１の面とは反対側の第２の面における前記軸受孔の縁部に塗布されることを特徴とする請求項１から６のいずれかに記載のディスク駆動装置。
【請求項１０】
前記ベースの第２の面には、前記軸受孔の縁部に沿って切削した切削部が設けられ、前記導電性樹脂は前記切削部から前記軸受ユニットに亘って塗布されることを特徴とする請求項９に記載のディスク駆動装置。
【請求項１１】
前記切削部においては、前記導電性樹脂はその高さが前記切削部の切削の深さよりも小さくなるように塗布されることを特徴とする請求項１０に記載のディスク駆動装置。